



同クラブは、65歳以上の元気な高齢者の方に、高齢者向け福祉施設内で利用者の方との話し相手となることや、介護を必要とする高齢者世帯で、高齢者や介護者の見守りをしていただく制度です。活動により、参加者の介護予防につながることも、元気をお裾分けしていきます。

現在、市内では42人の方がクラブ会員として活動中。また、同クラブは介護ボランティア制度のため、活動によりポイントが付与されます。ポイントは、海老名市のほか、宮城県白石市、北海道登別市の特産品などと交換できます。参加希望の方は、同クラブ事務局

(☎ 232・1600)へお問い合わせください。

募集

えびな元気お裾分けクラブにご参加を

事業者インタビュー

国分寺台ケアセンター
社会福祉協議会在宅支援課
石井さん

Q参加した方の様子は？

A施設の利用者さんの名前など、初めは覚えることも多く、緊張していたようでしたが、今ではすっかり溶け込んで、皆さんと笑顔でお話しされていたりするので、とてもなじんでいらっしゃるな、という印象です。



Q利用者の皆さんの反応は？

A利用者の皆さんは人生の先輩方なので、こちらに合わせてくれるところもあります。今までのボランティアの方と同じように、変わらず受け入れてくれています。

Qこれから活動を始めようと思っている方へ、メッセージをお願いします。

A介護保険の施設は、利用している方はご存知だと思いますが、どのような施設があったか分からないという方も多いと思います。施設はこういうところなんだ、ということを知ってもらうためにも、多くの方に参加していただけたらと思います。

Qお裾分けクラブを知ったきっかけは？

A退職して時間ができたので、何かないかな、ということで広報を見ていて募集記事を見つけました。所属している傾聴ボランティアでも話がありましたし、「お裾分け」ということで、参加することで自分にもプラスになることがあるんじゃないかと思ったので。最終的には、傾聴ボランティアの友達と一緒にやらないかと誘われたのが決め手になりました。

Q実際に、どのような活動をされていますか？

Aお茶出しや、手芸を一緒にしたりしながら、話し相手になっていることが多いです。

Q参加を迷っている人や、初めてこの活動を知った方などへのメッセージをお願いします。

A説明や文章だけではわからないこともあると思います。ぜひ一度、体験してみたらいかがですか。得るものは大きいと思いますよ。

クラブ員インタビュー



霜鳥佐知子さん

認知症サポーター養成講座を開催します



皆さんの参加を
お待ちしております

誰もが認知症について正しい知識を持ち、認知症の人や家族を温かく見守り、支援できるようにするため、認知症サポーター養成講座を開催します。



「認知症サポーター」は、何か特別なことをする人ではありません。講座を通じて認知症について正しく理解し、自分のできる範囲で認知症の人や家族を応援することが「認知症サポーター」の役割です。

例えば、友人や家族に講座で学んだ知識を伝え、認知症の人や家族の気持ちを理解するように努める、ということも、サポーターにできる支援の一つです。



講座では、認知症とはどういうものか、認知症の人と接する時にはどうしたらよいかなどの基本的な知識から、相談したい時にはどこに連絡をすればいいのかなど、すぐに役立つ情報などを学びます。

▼日時 10月2日(水)10時～12時
(9時30分受け付け開始)

▼会場 市役所401会議室

▼対象 市内在住の方

▼定員 先着100人

▼講師 キャラバン・メイト(高齢介護課・健康づくり課・地域包括支援センター職員)

▼申し込み 9月17日(火)から、直接または電話で高齢介護課へ。

▼その他 講座修了後、認知症を支援するサポーターの目印として、「オレンジリング(写真左)」を進呈します。



出前講座

自治会、事業所、学校、サークルなどの団体を対象に「出前認知症サポーター養成講座」を行っています。

事前に打ち合わせを行い、参加者の構成や関心に応じた内容で行うことも可能です。講座の時間は90分程度、講師費用は無料です。参加予定人数は10人以上が目安になります。

▼申し込み 高齢介護課または各地域包括支援センター(4・5ページ参照)へ。

高齢者の方を対象とした、予防体操の取り入れなどできます。

